

まちづくり交付金 事後評価シート
広兼金口地区

平成20年12月

広島県東広島市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名		広島県		市町村名		東広島市		地区名		広兼金口地区			面積		195ha												
交付期間		平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期		平成20年度		交付対象事業費		998 国費率		0.4															
1)事業の実施状況																											
当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業		事業名																							
				道路(中学校線)、公園(金口公園)、地域生活基盤施設(金口多目的広場(展望広場))、高次都市施設(福富地域交流センター(イベントホール))																							
提案事業		福富地域交流センターデイキャンプ施設、福富地域交流センター敷地内道路																									
				事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響																	
当初計画から削除した事業		基幹事業		・金口多目的広場(中央広場)		・地域生活基盤施設の広場として計画していたが、公園的な要素が強かったため、事業精査し、公園事業(金口公園)に変更した。				なし																	
				・金口多目的広場(連絡橋)、金口多目的広場(連絡道路)		・本事業、関連事業である東丁田川ピオトープとの連絡を図ることを目的として計画したものであるが、ピオトープの位置が変更になったため、取りやめた。																					
提案事業		・下竹仁バイパス線		・他事業で行うため、まちづくり交付金事業としては取りやめた。(関連事業とする)																							
		・福富地域交流センター(プール)		・市町村合併に伴い、新市内に同様の施設の建設が予定されているため、施設配置バランスを考慮し、取りやめた。				なし																			
・福富地域交流センター(宿泊施設)		・計画当初は、市内に宿泊施設が不足しており相應の需要が見込めたが、最近になって市内に相次いで宿泊施設が建設され、供給過多の状況になったため取りやめ、要望の多いデイキャンプ施設に変更した。																									
新たに追加した事業		基幹事業		・金口公園		・地域生活基盤施設の広場から、公園事業に変更した。				なし																	
				・福富地域交流センターデイキャンプ施設		・市内で要望の多いデイキャンプ機能(バーベキュー施設等)のみを整備する。																					
提案事業		・福富地域交流センター共用施設		・複数の事業(公園、広場等)にまたがり、該当範囲が不明確であったため、事業内容を精査し、提案事業として、共用施設1事業として追加した。				なし																			
交付期間の変更		当初		平成16年度～20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響																					
		変更																									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況																											
		指標		単位		従前値		目標値		数値		目標達成度		1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期									
		指標1		交通所要時間		分		10		基準年度 平成16年度		3		目標年度 平成20年度		モニタリング		評価値		△		あり なし		国道バイパスや町道の整備により金口・広兼地区間の所要時間が大幅に短縮される。		平成21年4月	
		指標2		通学路の歩道の設置延長		m		0		平成16年度		1,730		平成20年度		—		1,730		○		あり なし		通学路の歩道整備により、子どもたちの通学時の安全性が向上した。		-	
		指標3		地域来訪客数		人/年		50,000		平成16年度		150,000		平成20年度		—		624,100		○		あり なし		オープンイベントや報道等に多く取りあげられた効果もあり、大幅に増加した。		平成22年1月	
		指標4		地域住民の施設利用率		%		15		平成16年度		50		平成20年度		—		63		○		あり なし		地域住民が憩い、交流し、学ぶ場として、多くの人が利用している。また期待も大きい。		平成21年10月	
		指標5		町内交流施設との相互周遊客数		人/年		0		平成16年度		50,000		平成20年度		—		202,800		○		あり なし		東広島市の北部交流拠点であり、町内の他の施設との相互周遊をする人が多い。		平成22年1月	
		指標6		環境学習回数		回/年		2		平成16年度		20		平成20年度		—		26		○		あり なし		ダム整備を契機として、環境への関心度が高まり、環境学習活動が定着した。		平成20年12月31日	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況																											
		指標		単位		従前値		目標値		数値		目標達成度※1		1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期									
		その他の数値指標1		なし						モニタリング		評価値															
4)定性的な効果発現状況																											
・本市は平成17年の市町村合併により1市5町が合併したものであるが、市内全域からの来訪者が確認され、新市の新たな魅力を多くの人が認識した。 ・道の駅に数多くの来訪者が訪れたが、そこで発信された周辺の観光情報にて地域の従前からの観光資源を、多くの人が認識した。 ・ダムで水没するまちにシンボリックな施設ができ、大いににぎわっていることで、地域の大きな誇りとなった。																											
5)実施過程の評価																											
				実施内容				実施状況				今後の対応方針等															
モニタリング		なし						都市再生整備計画に記載し、実施できた																			
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した																			
								都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった																			
住民参加プロセス				「まちづくり協議会」は設置しなかったが、同様の役割を持つ「地域審議会」において、各年度の事業成果に対する評価や次年度事業の進め方について意見交換を行った。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●															
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した																			
								都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった																			
持続的なまちづくり体制の構築				「まちづくり協議会」は設置できなかったが、同様の役割を持つ「道の駅運営協議会」において、持続的なまちづくり体制を構築した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●															
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した																			
								都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった																			
施設運営は、道の駅運営協議会にまかせ、市は後方支援に徹する。																											

様式2-2 地区の概要

広兼金口地区（広島県東広島市） まちづくり交付金の成果概要								
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値
大目標：福富ダム建設に併せた町中心部の再生強化と都市・水源地域との交流拠点の創造 目標1：国道375号バイパスを核としたアクセス機能を充実強化し、交通利便性・安全性の向上を図る。 目標2：水源地域としての特性を活かした地域住民の憩いの場、多様な交流の場を創出し、地域の振興を図る。		交通所要時間	単位：分	10	H16	3	H20	3～5 H20
		通学路の歩道の設置延長	単位：m	0	H16	1,730	H20	1,730 H20
		地域来訪客数	単位：人／年	50,000	H16	150,000	H20	624,100 H20
		地域住民の施設利用率	単位：％	15	H16	50	H20	63 H20
		町内交流施設との相互周遊客数	単位：人／年	0	H16	50,000	H20	202,800 H20
		環境学習回回数	単位：回／年	2	H16	20	H20	26 H20

全体整備イメージ

施設オープン状況

デイキャンプ施設

イベントホール

展望広場

まちの課題の変化	○計画したすべてのハード整備が終わり、町中心部の機能強化・地域振興・環境意識の向上といった従前の課題について一定の成果が挙げられ、地域来訪者数が当初見込みを大幅に超えたことにより、周辺道路の渋滞という新たな課題が発生した。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	○「道の駅」のオープンによって、来訪客数が大幅に増加し、新たに周辺道路の渋滞が発生したため、円滑な交通処理を検討する。また、駐車場の不足が明らかとなったため、適切な情報の提供、案内、臨時駐車場の確保等を行う必要がある。 ○「道の駅」だけでなく地域全体の来訪者が増加しているものの周辺の観光施設の認知度が低いため、施設の周知活動を行うことによりさらなる効果をあげることが可能になる。